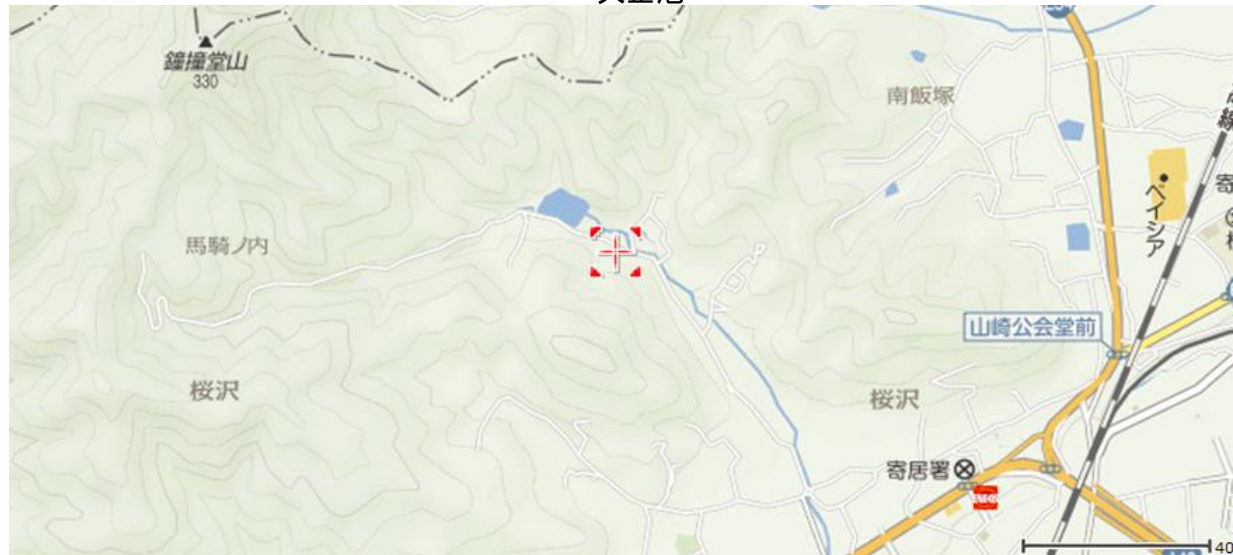


馬騎の内廃寺跡(大里郡寄居町)

天沼陸橋入口から入る



大正池



大正池



左前方が鐘撞堂山方向





馬騎ノ内沢は土石流が起こる可能性のある危険な場所とのこと



ここから山道に入る



右が鐘撞堂山方面





埼玉県立芝山自然公園
鐘撞堂山

来たときよりも美しく!

ごみは必ずお持帰り
ください

寄居町

竹炭工房

平炭・丸炭
華炭 竹酢液

行止り



この先
350m

行き止まり

重要監視区域

鐘撞堂山

鐘撞堂山
まで約 1km



沢に沿って登って行く



所々平場が見受けられる









竹炭工房か？平場である



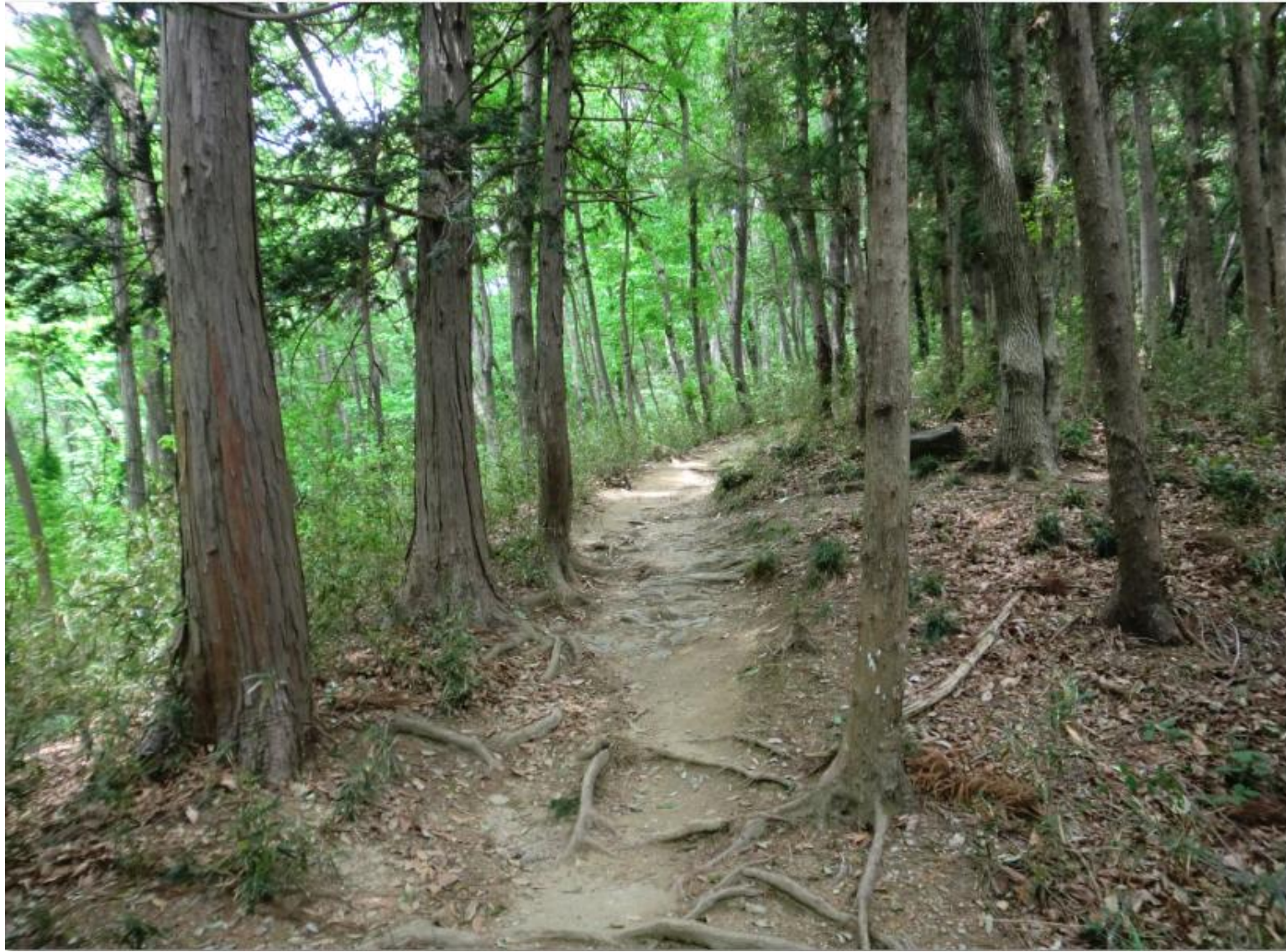
このあたりの平場までが馬騎の内廃寺の比定地か？



ここからは鐘撞堂山へ登るルート









いよいよ頂上







鐘撞堂山

ここは寄居町、花園町、美里町の分岐点で、標高330.2メートルの山です。

戦国時代は鉢形城の見張り場で、事あるときには鐘をついて合図したことからこの名が付いたといわれています。この鐘撞堂は、北条氏邦の義父、康邦が造ったものといわれています。

一説には、鎌倉時代に建造されたものだとか、猪股小十六範綱による造営ともいわれています。

この鐘撞堂の堂守は鐘行鐘阿弥で、この鐘阿弥は飛脚も兼ねており、天正年間には鐘打は20人で、敵襲来!ともなれば、戦時編成の守備隊によって、命令一下、鐘阿弥をしてこの鐘が撞き出されました。そして、鐘から鐘へ信号が伝達され、陣幕の諸城にまで非常事態に入るとなっていました。

天正18年、豊臣秀吉の小田原城征伐のとき、前田利家、本多忠勝などの軍勢などに攻撃され落城した折、ここの鐘も取り去られたといわれています。

寄居町・埼玉県



かね つき どう やま
鐘 撞 堂 山

ここは寄居町、花園町、美里町の分岐点で、標高330.2メートルの山です。

戦国時代は鉢形城の見張り場で、事あるときには鐘をついて合図したことからこの名が付いたといわれています。この鐘撞堂は、北条氏邦の義父、康邦が造ったものといわれています。

一説には、鎌倉時代に建造されたものだとか、猪股小平六範綱による造堂ともいわれています。

この鐘撞堂の堂守は鐘打鐘阿弥で、この鐘阿弥は飛脚も兼ねており、天正年間には鐘打は20人で、敵襲来！ともなれば、戦時編成の守備隊によって、命令一下、鐘阿弥をしてこの鐘が撞き出されました。そして、鐘から鐘へ信号が伝達され、隣接の諸城にまで非常事態勢に入る仕組となっていました。

天正18年、豊臣秀吉の小田原城征伐のとき、前田利家、本多忠勝などの軍勢などに攻撃され落城した折、この鐘も取り去られたといわれています。

寄居町・埼玉県



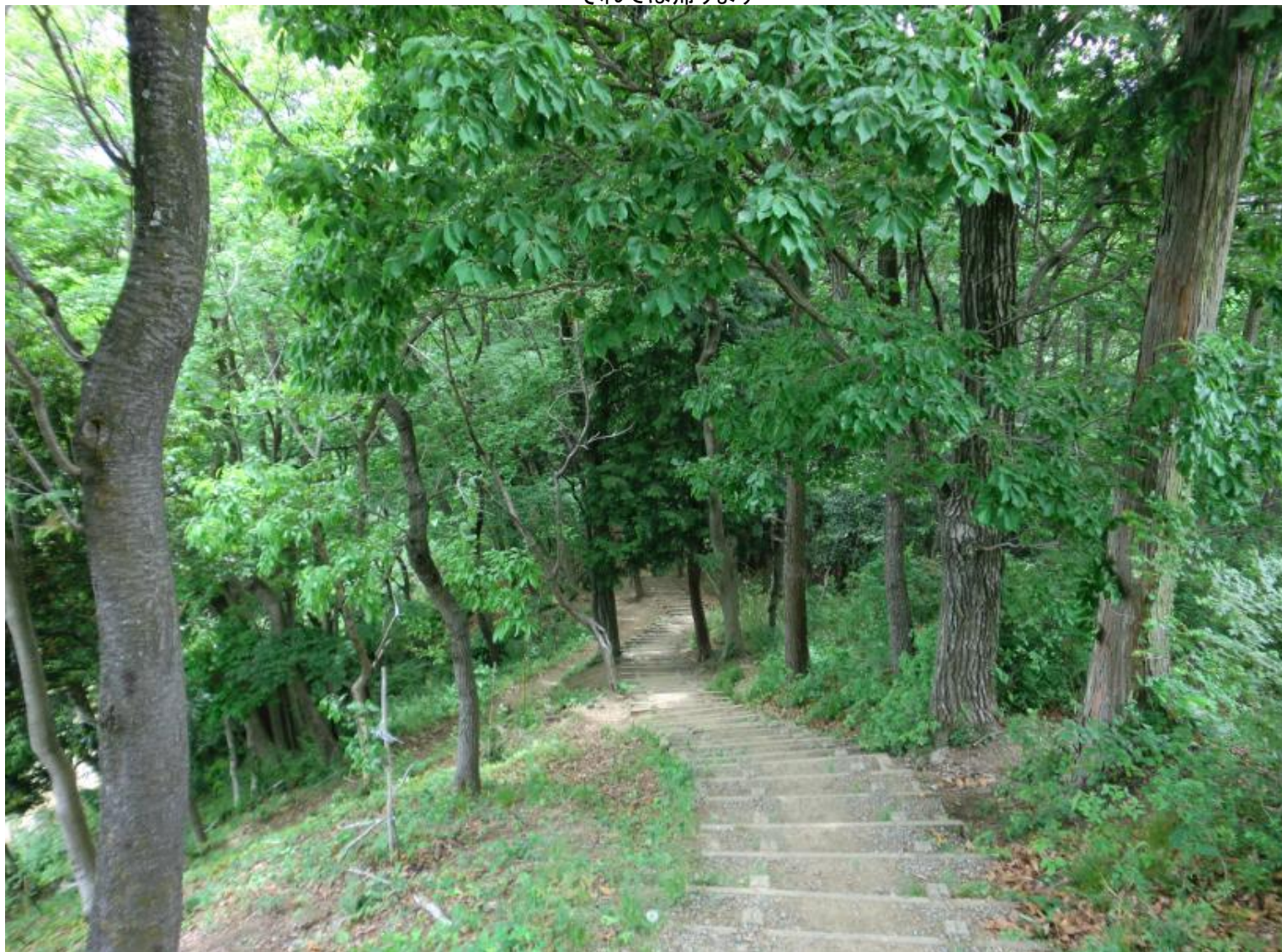




寄居の市街です



それでは帰ります



大正池まで戻りました



この周辺ではこんなに多くの野鳥がさえずっていました





鳥の聞きなし

鳥の鳴き声を、人間の言葉に見立てたものを「聞きなし」といいます。
「聞きなし」は、鳥の鳴き声を覚えるのに便利です。
「そうは聞こえない!」と言う人は、自分流の「聞きなし」を作ってみましょう。

四六、二十四
(シロク、ニジュウシー)



イカル アトリ科 Esophona personata
全長23cm。全国で繁殖し、冬には北のものは南へ移動する。山地の林に生息し、群れていることが多い。くちばしは黄色。体は灰色。木の葉を齧って食べる。

法、法華経
(ホー、ホケキョ)



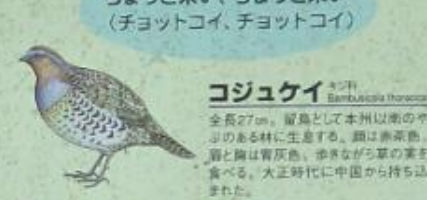
ウグイス ウグイス科 Copsychus saibara
全長15cm。雄13.5cm。全国で繁殖するが、北海道のものは主に本州以南に移動する。ササなどの藪を好んで生活する。昆虫や木の葉を食べる。

ぼろ窟て奉公
(ボロキテホーコー)



フクロウ フクロウ科 Strix uhalensis
全長50cm。林に棲息し、ネズミや小鳥などを捕らえて食べる。夜行性だが、昼間に見られることもある。

ちょっと来い、ちょっと来い
(チョットコイ、チョットコイ)



コジユケイ キツバト科 Bambusilla thoracica
全長27cm。留鳥として本州以南のやまのりのある林に生息する。頭は赤茶色。首と胸は青灰色。歩きながら草の葉を食べる。大正時代に中国から持ち込まれた。

虫喰って土喰って渋い
(ムシクツテ、ツチクツテ、シブーイ)



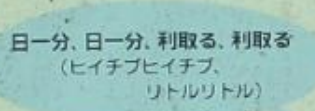
ツバメ ツバメ科 Hirundo cantica
全長17cm。夏鳥として大里に渡来する。家の軒下などに泥を使って巣を作る。たぐひに飛び回り昆虫を捕える。

出鉄砲
(デテッポー)

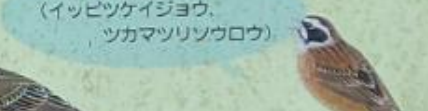


キジバト キジバト科 Streptopelia orientalis
全長33cm。全国で繁殖するが、北海道のものは冬には南下する。全身が灰褐色。つばきには灰色と赤褐色のうろこ模様がある。地上で草の実などを食べる。

日一分、日一分、利取る、利取る
(ヒイチブヒイチブ、リトルリトル)



一筆啓上仕り候
(イッピツケイジヨウ、ツカマツリソウロウ)



ホオジロ ホオジロ科 Entarbus coxius
全長16.5cm。全国で繁殖し、冬には北のものは南へ移動する。やぶや林縁に生息する。ほおは縞では黒色。顔は褐色。昆虫や草の実を食べる。

月日星はいはい
(ツキ、ヒ、ホシ、ホイホイ)



サンコウチョウ サンコウチョウ科 Topyrops phoeniceus
全長14.5cm。雄17cm(尾を含む)。本州以南の林に棲息し、虫などを食べる。顔の黒い斑と、目の周りの青色が特徴。

長兵衛、長兵衛、長忠兵衛
(チョウバエ、チョウバエ、チョウチュウバエ)



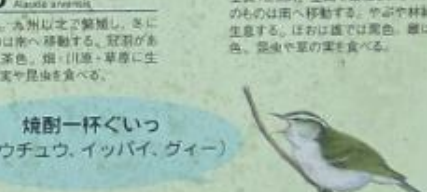
メジロ メジロ科 Zonotrichia japonica
全長11.5cm。夏鳥として丘陵地から山地に渡来する。全身が黄緑色。目の周りが白い。虫や木の葉を好んで食べるほか、花の蜜も好む。

特許許可局
(トッキョ、キョカキョク)



ホトトギス ホトトギス科 Caprimulgus japonicus
全長27.5cm。夏鳥として丘陵地から山地に渡来する。背面は青灰色で、腹は白く黒色の縦模様がある。主にウグイスに匹敵して音を聞かせる。

焼酎一杯ぐいっ
(シヨウチュウ、イッパイ、グイー)



センダイムシクイ センダイムシクイ科 Phylloscopus collybita
全長13cm。夏鳥として全国の広葉樹林に渡来する。木の枝を移動して虫を食べる。茂みにいることが多く、姿を隠すのはまれ。

寄居町・埼玉県



参考ホームページ

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~kanetukidouyama/makinoutihaiii.html>

奈良・平安時代に、牛馬の飼育が行われた「牧」を管掌していた有力者が寺の造営に関わったらしいのですが現在は建造物の跡はありません。鐘撞堂山ハイキングの大正池コースで鐘撞堂山へ向かい車道から離れコース上の天沼川源流付近の尾根上で標高256.5mから208.0mの間に16の平場が確認されているそうです。採集された瓦から7世紀に建てられたことが分かり、当時は瓦葺きの建物が威容を誇っていたことでしょう。

私有地でもあり立ち入りはできませんが、この付近を通るときは昔このような建物があり僧侶が多く暮らしていたのを思いいろいろ想像してみるのも良いでしょう。

なお現在、馬騎の内には竹炭工房がありますが人は住んでいません。



大正池コースの途中から
このあたりに馬騎の内廃寺があったのか？



馬騎の内から鐘撞堂山方面を望む

馬騎の内廃寺/飛鳥～平安時代/埼玉県大里郡寄居町所在

創建期の瓦(飛鳥寺系の瓦)が発見されている/3.5km東方に位置する中小前田古墳群を形成した一族の氏寺とする説がある